

プロデュース部門（復興創生担当）

地域未来デザインセンター 特任教授 仲井康通
 地域未来デザインセンター 特任准教授 藤室玲治

1 相双地域支援サテライトによる支援活動

（加藤まゆみ・梅津彩音・皆川咲子・吉田英仁・山崎和子・佐藤孝雄・坂地 麻美子・谷平 香里・櫻井聖子・西康一・長田滉央）

相双地域支援サテライトは、被災地域と福島大学をつなぐ現地の拠点として、東日本大震災発生から一年後の2012年6月、川内村に設置した。現在は、富岡町と浪江町に拠点を置き、被災12市町村を対象に、地域が抱える課題の解決や教育環境の向上、情報発信などの支援活動に取り組んでいる。

1-1 地域復興・帰還促進支援「被災市町村の課題解決支援」

(1) 役場職員との意見交換会「明日を考える会」の開催

役場若手・中堅職員を対象に、意見交換等を通しての地域課題解決に向けた取組みなどについて勉強会を行っている。今年度は「移住定住促進と地域住民のコミュニティ」や「創業支援・働き方、環境」などをテーマとして取り上げ実施した。

- ・第1回 日時：5月27日(金) 場所：linkる大熊 参加者数：8名
- ・第2回 日時：9月16日(金) 場所：浪江町ふれあい交流センター 参加者数：10名
- ・第3回 日時：11月11日(金) 場所：もりもりランドかつらお他 参加者数：8名
- ・第4回 日時：2月9日(木) 場所：楢葉町kashiwaya、CODOU 参加者数：6名
- ・第5回 日時：3月7日(火) 場所：双葉町駅西住宅周辺（予定）

(2) 農業再生に向けての支援

浪江町には大規模な牧場の建設が予定されており、飼料用作物は浪江周辺市町村の地産地消が見込めることから、農業の再生、遊休農地の有効利用の支援に取り組んでいる。また、地域の要望に対して、現場と福島大学とのつなぎ役として、食農学類、環境放射能研究所等の関係機関とのマッチングを行っている。

- ・飼料作物の試験栽培にかかる作業手配等の支援
- ・水稻の生育不良の原因等について調査、得られた情報の近隣農家への提供
- ・農家の方を対象とした説明会の開催

環境放射能研究所「浪江町で栽培した野菜類に関する研究結果」

(3) 被災地スタディツアーオの実施

被災地域を対外的に開かれたものにし、地域情報の発信、人と人との繋がりを目的に実施している。

① 6月29日(水)～30日(木) および 7月22日(金)～23日(土)

対象：日本時計協会、時計メーカーエンジニア のべ9名

内容：請戸小学校、東日本大震災・原子力災害伝承館視察 他

② 7月8日(金)

対象：芝浦工業大学岡野研究室 教員・学生 7名

内容：被災市町村の概要、復興状況の説明 他

(3) 11月9日(木)

対象：福島学院大学、桜美林大学、福島大学 教員・学生 18名

内容：原子力災害伝承館視察、ワークショップ（地域の現況、地域サポートの在り方）

(4) 11月14日(月)～15日(火)

対象：NPO法人ガリレオ工房 教員・学生 8名

内容：川内村秋元正教育長講話、双葉郡内の被災地域・施設視察

(5) 2月24日(金)

対象：大学生 20名（予定。福島大学、東北大学、早稲田大学、神戸大学等）

内容：「富岡×仕事 魅力発掘1日インターン」と称し、富岡町に立地する企業の視察、とみおかプラスが2023年夏に実施する、富岡町の企業でのインターンシッププログラムについてのアイデア出し。

(4) 役場等との連携活動

(1) 楢葉町活性化協議会

楢葉町内の企業・団体で構成されている楢葉町活性化協議会（月1回）に参加し、事業の検討を行うとともに、他の参加機関と連携して地域の活性化に向けた活動を行っている。

(2) 富岡町、浪江町、大熊町、双葉町に対するサポート

富岡町・浪江町に設置しているサテライトを核として、復興途中有る富岡町・浪江町・大熊町・双葉町等のニーズに対応した支援を行っている。

1-2 教育環境の整備「被災地の教育環境向上」

(1) 教育ワークショップの開催

被災12市町村の幼・小・中学生を対象としたワークショップを開催した。

2022年度教育環境整備 実施ワークショップ

	日程	内 容	対 象	講 師	人 数
1	5/8 7/21 10/21	ひろの元気教室 ・食育学習 ・移動プラネタリウム星空教室 ・英語ワークショップ	ひろの元気教室児童	ふくしま食育実践サポート （株）STARRING PLANETARIUM 福島大学学生	4 15 5
2	5/14	バドミントン部活指導	いいたて希望の里学園 バドミントン部員	福島大学バドミントン部	9
3	6/15	大きなアートワークショップ	ふたば幼稚園園児		3
4	6/15 12/21	美術指導	双葉中学校生徒	福島大学渡邊晃一教授他	9
5	6/20 7/4	木育ワークショップ	なみえ創成クラブハウス 児童	Fimstudio	8 8
6	7/7	人権教育に繋がるスポーツ活動 について	双葉南・北小学校児童 〃 教員	福島大学蓮沼哲哉准教授他	29 19

	日程	内 容	対 象	講 師	人 数
7	7/22	時計組立教室	飯館放課後児童クラブ 児童 広野小学校児童	日本時計協会、時計メーカー工 ンジニア	21
	7/23				13
8	7/25 -28	動画制作ワークショップ	川内小中学園児童	合同会社Espero	11
9	8/3	福島大学ミニコンサート	ならはっ子こども教室児 童	福島大学中畠淳教授他	19
10	8/5	部活指導（バドミントン・卓球）	なみえ創成中学校 バドミントン部員、卓球 部員、顧問	福島大学バドミントン部員、卓 球部員	7
	9/17				5
	1/6				7
11	8/23	移動プラネタリウム星空教室	なみえ創成クラブハウス 児童、にじいろこども園 園児他 ふたば幼稚園園児、双葉南・ 北小学校児童	合同会社夢のほしそら配達	37
	12/21				33
12	9/7	大型絵本と紙芝居の公演	ふたば幼稚園園児他	福島大学児童文化研究会	7
13	10/9	科学実験教室	なみえ創成クラブハウス 児童、生徒	福島高専植英規教授、豊島晋准 教授	10
14	10/9 -10	天神岬キャンプ体験 (災害ボランティアセンターとの 連携)	ならはっ子こども教室児 童	福島大学災害ボランティアセン ター他	37
15	11/10	体力向上のための体操指導	ふたば幼稚園園児、双葉南・ 北小学校児童	筑波大学体育大学院生他	31
16	11/14	理科実験教室	川内小中学園児童	NPO法人ガリレオ工房	25
17	12/14	音楽鑑賞会	ふたば幼稚園園児、双葉 中学校生徒	福島大学中畠淳教授、横島浩教 授他	13
18	12/26	LEDサイエンスワークショップ	ならはっ子こども教室児 童	福島高専植英規教授他	59
19	1/20	五感を刺激する音楽ワーク ショップ	ふたば幼稚園園児	福島大学杉田政夫教授他	13
	1/21		広野町小中学生		5
20	2/20 予定	レゴロボプログラミング	なみえ創成クラブハウス 児童	福島高専植英規教授	14
21	2/25 予定	バドミントン部練習試合	楢葉中学校バドミントン 部	福島大学バドミントン部	15

(2) 保育職員、保護者を対象とした研修

① 7月6日(水)

対象：楢葉町あおぞらこども園職員他 13名

内容：特別支援が必要な子どもの特性や対応方法を学ぶ研修会の開催

講師：桜の聖母短期大学 堀秋彦 教授

② 9月14日(水)

対象：双葉町ふたば幼稚園園児・職員他 8名

内容：園児の体力向上を図るプログラムの実技指導と懇談会の開催

講師：桜の聖母短期大学 堀秋彦 教授

③ 12月7日(水)

対象：楢葉町あおぞらこども園職員、保護者他 20名

内容：子どもとの関わり方や子育てのコツを学ぶ研修会の開催

講師：桜の聖母短期大学 堀秋彦 教授

1-3 情報の発信

(1) ニュースレター「相双の風」の発行

被災12市町村間の情報共有とサテライトの活動を周知させることを目的に、2016年から季刊誌として発行しており、今年度は以下により発行した。

・紙面：A3二つ折り（両面カラー）、4,000部／回発行

季刊発行（号は新型コロナにより発行中止）

・配布対象：被災地域の団体・個人、県内の観光案内所ほか

・配布方法：団体へは郵送、道の駅などには設置

(2) ホームページ等による情報発信

サテライトの取組み内容を周知するため、活動内容の掲載や情報の開示を行った。

(3) 「ふくしま12市町村ぐるぐるMAP」の発行

「ふたばの明日を考える会」でのアイデアから生まれた便利マップで、双葉郡広域マップとして2016年11月初版発行から毎年更新を継続し発行している。

・紙面：A1カラー 200部、A2カラー 30,000部発行（予定）

・設置場所：12市町村役場、まちづくり会社、観光協会、ガソリンスタンド、コンビニエンスストアなど12市町村内を中心に県内に配布

2 その他の活動

2-1 復興支援活動紹介

(1) 出展イベント

紹介ブースを出展し、センターが取り組む支援活動並びに福島の現状や課題を紹介している。

① 8月24日(水)～25日(木) 環境放射能除染学会 第11回研究発表会

会場：郡山文化センター

主催：一般社団法人環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生のための学会

出展内容：被災地域に設置した相双地域支援サテライト、学生団体災害ボランティアセンターの活動紹介

② 10月22日(土)～23日(日) 第7回防災推進国民大会2022 in兵庫
会場: JICA関西
主催: 防災推進国民大会2022実行委員会
(内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議)
出展内容: 東日本大震災からの復興の中での福島大学の取り組み

(2) 被災地スタディツア (学内対象) の実施

- ① 9月1日(木)
対象: 学生10名、教職員10名
内容: 東京電力廃炉資料館、第一原子力発電所視察
② 9月26日(月)
対象: 学生15名、教職員5名
内容: 東京電力廃炉資料館、第一原子力発電所視察

2-2 研究、社会貢献活動等

○復興創生担当としての研究、活動等

(1) 受託研究

「南相馬地域商工業者経済状況調査」

東日本大震災発災以降、原町商工会議所からの委託により、毎年度、商工業者の実態調査を実施している。

(2) 科学研究費

「災害多発環境下の日本に住み続けることの意味を問うー忘却・無関心に抗うー」

東日本大震災・原子力災害など大規模な自然・人為災害を対象とし、被災者・被災地の目線から復興を検証すること、及び時間の経過が災害の「忘却」や「無関心」をもたらす要因を分析し、その克服に向けた制度設計を進める。

○藤室玲治の個人研究、活動等

(1) 「ぼうさいこくたい2022」での活動

10月23日(日)に、第7回防災推進国民大会2022 in兵庫(通称、ぼうさいこくたい2022)で開催されたセッション「100年後の共感へ バズる災害伝承をさぐろう」(主催:【現地共同企画】伝承セッション2022)にパネリストとして登壇した。また、同日、同会場で開催された、「ALL HATひょうご防災フェスタ」の「つなぐ、地域と大学の27年」(主催:神戸大学地域連携推進本部)に登壇し、コメントした。

(2) 学会活動

11月26日(土)に、日本福祉教育・ボランティア学習学会第28回こうべ大会の課題別研究(こうべ企画)A「ボランティアの今と未来～阪神・淡路大震災から1万日！」において司会を務めた。

(3) 福島高校高大接続講座(文型講座)での講義

11月30日(水)に福島高校の「令和4年度1学年SS探究 高大接続講座」に参加し、「住民と地域の課題を知るために—復興創生のためのコミュニケーション・デザイン」というタイトルで福島高校生に講義した。

(4) 川内村役場庁舎整備検討委員会

川内村より委嘱を受け、川内村役場庁舎整備検討委員会の委員となり、12月21日に委員の互選により委員長に就任した。

(5) 大学生ボランティアの交流促進

2月22日(水)に宮城県丸森町において、福島大学災害ボランティアセンターと神戸大学学生震災救援隊の学生ボランティアの合同により仮設住宅の清掃活動を実施。両大学の学生の交流会も実施する(予定)。また、3月6日(月)~8日(水)に、神戸大学生ボランティアと東北地域の大学生ボランティアの交流を岩手県陸前高田市で実施予定。